

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	下井 慈	学校名	長野県 根羽村立義務教育学校根羽学園
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	中学2年（3名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和4年10月19日（水）第3校時 10：40～11：30 単元展開の第4時を公開		

【実践概要】

1. 実践する教科：国語科 領域（内容のまとまり）：思考力・判断力・表現力（B 書くこと）		
2. 単元(活動)名：SDGs 未来都市根羽村をどのように実現するべきか ～プレゼンテーションの説明文を書く～		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：論理的に考える力 や共感したり想像したりする力を養い，社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする 単元の目標 (1) 知識及び技能 ア 言葉には，相手の 行動を促す働きがあることに気付くことができる。 エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すと ともに，類義語と対 義語，同音異義語や 多義的な意味を表す 語句などについて理解し，話や文章の中で使うことを通して， 語感を磨き語彙を豊 かにすることができる。 (2) 思考力・判断力・表現力 書くこと Bーウ 根拠の適切さを考 えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考 えが伝わる文章に なるように工夫することができる		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	両極端な意見の言葉ではなく、歩み寄るための言葉に相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 「共存」と「共生」という2つの類義語の違いを明確に理解し、適切に使うことができる。
	②思考力、判断力、表現力等	「共存」と「共生」の違いについて具体的な例を挙げて説明する文章を書くことができる。
	③主体的に学習に向かう態度	「共存」と「共生」の意味用法の違いを理解し、進んで説明する文章を書くようとしている。対義語・類義語・多義語について学習した生徒達が、「共存」と「共生」の違いを説明する文章を書く場面で、森林と人間が共に関わり合っている事を取り入れながら、より適切な方を選択して具体的な例を挙げながら説明しようとする。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>新しい言葉を知っても、辞書的な意味の理解で留まっている生徒に、「共存」と「共生」という2つの類義語の使われ方の違いを、社会の出来事と結びつけて具体的に考えることにより、言葉の意味を明確に理解し、適切に使えるようになると考え、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>SDGs 未来都市に認定され、持続可能な村づくりを始めた根羽村において、自然との共生、多文化異文化圏の人々との共生、世代間のある人々との共生について深く考え、自分事として捉えて行動していく力は、根羽村に育つ子どもたちが身につけていくべき重要な力である。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>自然豊かな村で育つ生徒にとって、多くの山々、美しい水が流れる川があることが誇らしく、この環境を守っていききたいという思いを、当たり前のように持っている。逆に言えば「自然と共生する」「生き物と共存する」ということの難しさや世界的・今日的課題には気づきにくい。また、自然や環境を守る事が、「村のため」という狭い視野に留まりがちである。</p> <p>【指導観】</p> <p>上記のような生徒に対して、SDGs 未来として根羽村が取り組んでいこうとしていることを理解したり、自然と人間が「共存」「共生」していくために、日本や世界で取り組まれていること調べたりする中で、より広い視野から「共存」や「共生」について捉え、適切に使えるようになってほしい。</p>
---	--

6. 単元計画 (全7時間)				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs 未来都市って何？	単元の目標を明確にできる。	①根羽村がSDGs未来都市に選ばれた新聞記事を読み、感想を伝え合う。 ②根羽村が作成した提案書を読み、根羽村が未来のために森林を守ることと脱酸素社会を実現しようとしていることを知る。 ③根羽村の一員として、自分には何ができるか考え、プレゼンテーションをするという学習活動のゴールを伝える。	新聞記事 根羽村の提案書
2	森林と人間の関係は、「共存」か「共生」なのか。	森林が失われていく理由やそれによる影響を、説明文から読み取り、森林が文明を守る生命線だと理解できる。	①説明文「モアイは語るー地球の未来」を読む。	説明文「モアイは語るー地球の未来」
3			②森林はどのように失われていったか読み取る。 ③森林が失われたことで人々にどのような影響があったか読み取る。 ④森林と人間は「共存」するとあらわすべきか、「共生」すると表すべきか、根拠をもって説明する。	

4	森林を守る事と脱炭素社会の実現は両立できるか。	根羽村が目指している森林を守ることと、脱炭素社会の実現は、両立できるかどうかという問に対して自分の考えを持ち、立場を明らかにして説明することができる。	①丸森町の人々が太陽光発電所建設に対して賛成反対に分かれている現状を知る。 ②賛成・反対それぞれの立場の考え方について調べたり、想像したりする。 ③根羽村が脱炭素社会を実現するためにメガソーラーシステムを建設したら、賛成か反対か討論する。	丸森町の太陽光発電所建設に対しての看板の写真 メガソーラーシステムの航空写真
5	SDGs 未来都市根羽村を目指して私たちが取り組むこと	森林と人間が「共存」あるいは「共生」する未来の根羽村のために、太陽光発電に反対している人たちに対してどのように説明すればいいか考える。	①根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考える。 ②お互いの発表を聞いて、内容の良さや話し方の良さを見つける。	iPad
6 7	プレゼンテーション	SDGs 未来都市根羽村にある根羽学園生徒会として、SDGsに関わる新たな取り組みを考え提案する。	①今までの学習を活かして、根羽学園生徒会としてSDGsに関わる新たな取り組みを考える。 ②自分が考えた取り組みの良さをしってもらうためにプレゼンテーションをする。	iPad

7 本時案				
段階	学習活動	予想される生徒の姿	指導・評価	時間
	学習問題 脱炭素社会どのように実現させたら良いだろう。			
導入	1 宮城県丸森町が抱えている問題を把握する。 ①丸森町について簡単な説明を聞く。 ②太陽光発電施設建設に関わっての看板をみる。 ・賛成の看板 ・反対の看板	・根羽村と同じように森林に囲まれた自然豊かなところだな。 ・人口が減少しても持続可能な地域作りをしているところも似ているな。 ・やっぱり脱炭素社会を実現するために丸森町も太陽光発電施設を作ろうとしているんだ。 ・住民のみんなが賛成しているわけではないんだな。 ・どうして反対するのだろうか。 ・意見が2つに分かれていたら、脱炭素社会が実現できないな。	・8月の研修で訪れた丸森町で、太陽光発電施設の建設を巡って住民の意見が分かれていることを説明する。 「2つの看板を見て、どう思いますか。」	5分

学習課題				
根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考えよう。				
2	もしも、自分が村長（役場の職員）だったら、反対住民にどのように説明し、理解してもらうか、5分間程度の説明を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・反対している人の理由を、整理しておくのが大事だな。 ・反対している人の不安を取り除くにはどんなことが必要かな。 ・太陽光発電の良さを伝えたらいいと思う。 ・話の仕方も、反対している人の意見も理解できるという言い方にした方がいいな。 <p>ペア①渚月と悠晟は、渚月が主導しながらも、悠晟の考えを取り入れながら説明を考えるだろう。反対住民の理由に対する反論を考えて説明するだろう。</p> <p>ペア②積志と親子留学生は初対面だか、積志が積極的に声を掛けて学習を進めるだろう。キーノートを使い画像を効果的に使いながら説明することを考えるだろう。太陽光発電の良さを強調する説明をするだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを整理するための学習カードを配布する。 ・二人一組で考えるように指示する。 <p>ペア</p> <p>①渚月・悠晟 ②積志・親子留学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーノート等で視覚的なものを使って説明しても良いことを伝える。 ・説明する内容のメモや原稿を書かせる。 	20分
3	それぞれのペアで考えた反対住民への説明を発表する。	<p>自分たちが考えた説明を堂々と発表するだろう。</p> <p>お互いの説明の良さに気づきながら聞くことができるだろう。</p>	<p>①②お互いの説明の内容や説明の仕方でも良かったところを認め合わせる。</p> <p>生徒が発見した説明の良さ板書に整理する。</p>	15分
4	学習の振り返り 脱炭素社会を実現させるためにどのような事が必要かまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いも理解し尊重しながら、お互いに納得できる話し合いをしていくことが大事だと分かった。 ・相手の意見をすべて否定するのではなく、良いところ課題となるところを整理しながら話し合っていくことが大事だと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の仕方の良さ、国語的に価値のあった部分について言葉で生徒に評価を返す。 	10分

8. 評価規準に基づく本時の評価方法	<p>【知識及び技能】</p> <p>賛成・反対という両極の意見ではなく、双方が歩み寄るような話し合いにより、森を守る事と脱炭素社会の実現が両立できるということに気付くことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <p>太陽光発電の長所と短所を踏まえた上で、森を守ることと脱炭素社会の実現を両立するための方法や鍵になることを想像し、自分の考えを書くことができる。</p> <p>【学びに向かう人間性等】</p> <p>進んで太陽光発電の長所や短所を調べたり、考えたりして、問いに対する答えを書こうとしている。</p>
9. 学習方法及び外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad を活用した調べ学習 ・ メタモジ classroom を利用したグループ学習 ・ 賛成反対の立場に分かれた意見交換会
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内教科研修会での実践授業参観 ・ 校内研修会 ・ 信州 ESD コンソーシアム成果報告会での発表

【自己評価】

11. 苦労した点	<p>国語としてつける力を明確にして授業を仕組むこと。総合的な学習の時間や道徳のような授業にならないよう、集めた情報をもとに自分と違う考えを持っている相手に、どのように伝えるかということを考えさせ、言葉や資料の選び方、話し方など試行錯誤させるような授業になるように工夫した点。</p>
12. 改善点	
13. 成果が出た点	<p>①「共存」と「共生」という類義語を明確に区別して使えるようになった。</p> <p>②自分と反対の意見を持っている相手に、自分の考えを理解してもらうための説明の仕方を工夫できるようになった。</p> <p>③根羽村が目指していこうとしていることを理解し、SDGsに関わって特に環境との共生に関する課題を、自分事として考えられるようになった。</p>
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	

森林と人間は（共存・共生）していく

どっちの方がふさわしい言葉だと思えますか。どちらかを選んで理由を書きましよう。

人間も森林のかんりをするし、資源ももどつので共生の方が
ふさわしいと思ふ。あたがいにもいいところを使ひあつて
生きていくのがいいと思ふ。

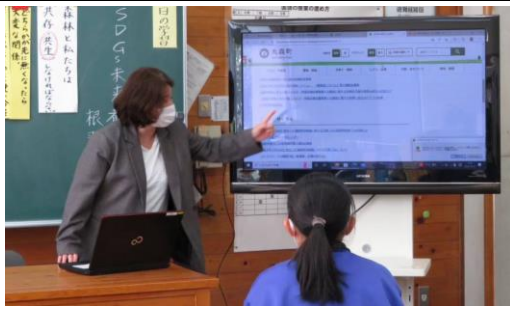
共に生きるだけでなく、

人間も社会をより良くしていくために成長していかなければ
ならないし、森林（自然）環境も大切にしながら共に成長
して 生きていく必要があるから。また、共生というと、

人間・自然のどちらかが片方がいないとバランスが保たない、互いに

単元の展開 第3時

3人の生徒全員が「森林と人間は共生する」と表現する方が相応しいという結論にいたった。生徒は共生という言葉の意味を明確に理解し、お互い良い部分を使い合っていける関係やお互いを大事にし、ともに成長していく関係という具体的な状態を挙げて説明することができた。



単元の展開 第6時

学習課題

「根羽村が目指す脱炭素社会を実現させるために、太陽光発電施設建設に反対している人々に対して、どのような説明が必要か、理解してもらうための説明を考えよう。」



学習の振り返り

「正反対の意見をもっている人に説明するとき、どのように説明するとい
いと思いましたか。」という振り返りに対する生徒の記述

正反対の主張をしている人の靴をはいてみて、どんな所に不安があるのか、何を問題視しているのかを

まず、理解することが大切だと思った。また、メリットデメリットのどちらをも伝えながら対策と共に言うことで、

安心させられると思った。今回は時間がなく数値も案をつきか上げられなかったが、より相手をなごく、共感

させるには、それがあるといいと思った。話し方は、相手により添えること、橋よみは絶対に必要だと思

・相手が不安だと思ふことを考えてから説明することで「あーなるほど」と思ってもらえる。

し、質問されるといふのは、説明が足りなかつたと思ふので対策をすることが大切だと思

ふ。

単元展開 6・7 時間目

「SDGs 未来都市根羽村にある根羽学園生徒会として、SDGs に関わる新たな取り組みを考え提案する。」

生徒が作成したプレゼンテーションの資料 URL 参照

https://drive.google.com/file/d/1aLGd7bHtNuZJ3kFkx_5f-2SC0sSZYPAX/view?usp=share_link



これまであまりSDGsとは関係がなかったと思っていたけど、自でもできることなんだと目覚めた。SDGsの勉強をすることで、来年は会長候補に立候補してTOPの内の一人になるのがこの目標を掲げて

根羽学園を盛り上げたい。

その今の学習で、これからの土壌の未来は、あまり考えなかつたけど、考えこめること、今の土壌がどんな状況なのかをわかった。太陽光発電のプロジェクトだった。若杉会での新しい取り組みについて、セミナーを通してオキコシさまの方か

根羽村がどのようなことを目指しているのか、実際にどのようなことを行っているのかを学習したり、根羽学園内だということにも結びつけて調べたりしたから、SDGsがより身近になった。また、イースター島の事例からも、地球がどう変わっていくのかを想像したため、SDGsが大切だとより分かった。若杉会での活動として、三人それぞれ環境やSDGsにつながる活動を分かりやすく伝えられて良かった。プレゼンテーションの学習では、「人に伝える」ためには、話す順番や内容、話し方を工夫していくことが大切だと分かったため、社会などで報告書や提案書、レポートを作ったり、人に説明するときには生かしていきたい。

SDGs を題材とした単元の振り返りの生徒の感想から成果と課題

- SDGs を自分事と考え、より身近なものと考えられるようになった。
- プレゼンテーションの学習として、話す内容や話し方について深く考える。
- ▲単元の展開に世界の人々とともに生きていく、地球の環境をよくしていくという視点の学習活動もいれられるとよかった。

<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>8月には、多文化共生ということテーマに多くのことを研修させていただいた。その中で学んだことを活かして行った授業は①「共生」と「共存」という言葉を比較し、違いを明確にして使うことができる論理的な思考力を高めるための学習活動と、②様々な背景や文化をもつ人たちと「共生する」ためには、どのように対話していくことが必要かという論理的思考力を高める学習活動である。SDGs の研修を活かして行われる授業実践は、社会や学級活動、総合的な学習の時間などが多い中、「国語の目標（つける力）」を見失うことなく授業を構想するのはなかなか難しかった。今回は初めての実践で教師主導の部分も多々あったので、これをさらにバージョンアップさせ子どもたちが主体的に追究でき、協同的・対話的深い学びになるような授業づくりをしていきたい。</p>
-----------------------	--

使用した教科書・単元名：光村「モアイは語るー地球の未来」「魅力的に伝える～プレゼンテーション～」

参考資料：

丸森町の太陽光発電所建設に対しての看板の写真

メガソーラーシステムの航空写真

YouTube「KBH 東日本ニュース」

宮城・丸森町の大規模太陽光発電所計画 住民が環境への悪影響を懸念（202107070A）

JICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>